

■「効果の見える治水事業」

香川県 春日川(高松市)の治水事業

『春日川河川激甚災害対策特別緊急事業』



香川県高松土木事務所長

ほそたに よしてる
細谷 芳照

春日川は讃岐山脈に源を発し、県都高松市の東部を北に流下して河口域で新川に合流し瀬戸内海に注ぐ、流路延長約15km、流域面積約63km²の二級河川です。

下流部では市街地を流れ、JR高徳線、高松自動車道、国道11号等の主要幹線が東西に横断し、この地域における社会・経済・文化の基盤が形成されています。

本河川では、平成16年10月20日に来襲した台風23号によって、日雨量358mm、最大時間雨量87mm、3時間雨量205mmを記録し、甚大な浸水被害を受けました。浸水家屋は2144戸に上り、川島東町周辺での浸水深さは2mに達し、床上浸水1235戸、流域の被害総額は285億円に達しました。

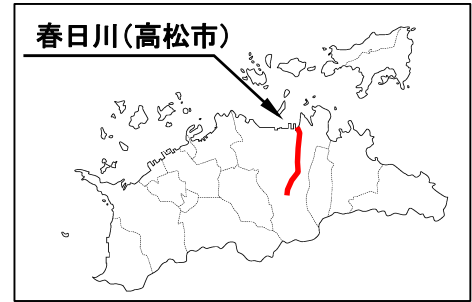
春日川では昭和35年から河川改修事業に着手し、下流部より順次河積の拡大や護岸の整備を実施してきましたが、当時の国庫補助事業の計画区間は、河口から県道太田上町志度線の六条橋上流部までの約6.2kmのみであり、計画区間の延伸が検討されていたところでした。

そのような中、台風による大きな被害を受けたことから、平成16年度に河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、70年確率規模の洪水を対象に掘削、築堤、護岸整備、狭窄した既設橋梁や取水堰の改築を行い、積極的に事業を推進してきました。

河川改修にあたっては、再度の浸水被害を防止することに加え、環境にも配慮した護岸工法を採用するとともに、河床は滞筋を確保し変化をもたせるなど、自然の回復力によって動植物の生息・生育環境の復元を図るようにしています。

激特事業は本年度で完了となりますが、さらに上流域においても同様の浸水被害を受けていることから、改修計画の上流延伸を計画しているところであり、今後も災害に強い快適な郷土を目指します。

位置図



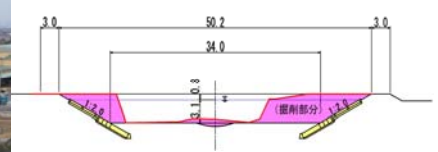
①台風23号による浸水状況(川島地区)



②家屋被災状況(川島地区)



③整備状況(川島橋)



標準断面図(一般部)

